



紀伊半島大水害の様子（十津川村栗平地区）

特集1

そな

備える

奈良の防災
最前線

突然の大雨や台風、地震など、自然災害はいつどこで起こるか分かりません。平成23年9月に発生した紀伊半島大水害では、県内でも土砂災害や河川の氾濫などにより大きな被害が生じ、多くの人々の暮らしに深い傷跡を残しました。

その災害発生から今年で15年。この間、県では防災に関するさまざまな取り組みを進めてきました。県民の皆さんも改めて自然災害への備えについて、家族や地域で話し合ってみてください。

家族で話しておきたいこと

- 家族が離ればなれになってしまった時の集合場所や、最終的な避難場所
- 避難場所までの安全な避難方法やルート
- 勤務先や学校、親戚などの連絡先
- 外出先で災害が発生した場合の安否確認の方法や集合場所



ハザードマップでお住まいの地域の被害予測を確認してみましょう



災害用伝言ダイヤルの使い方を確認しておきましょう



万一の災害発生時に慌てずに身の安全を確保できるよう、避難に必要な情報を家族で共有しておきましょう。その際に欠かせないのが水害・土砂災害・地震などの「ハザードマップ」です。それぞれのマップを通して、住んでいる地域の洪水や土砂災害の危険性、地震の揺れの想定などを確認しましょう。次に避難所の位置を確認し、避難方法やルートについて話し合い、下見をしておきましょう。

「その時どうする？」を確認

暮らしの備え

ある日突然起こる自然災害から暮らしを守るためには、日頃から防災について家族で話し合い、災害を想定した準備をしておくことが重要です。皆さんの家庭でも、できることから一つずつ、暮らしを守るための「備え」を始めましょう。

体験利用ができます

毎月1日と15日

1月1日～3日、8月30日～9月5日（防災週間）、1月15日～21日（防災とボランティア週間）も利用できます。

災害用伝言ダイヤル

1 7 1

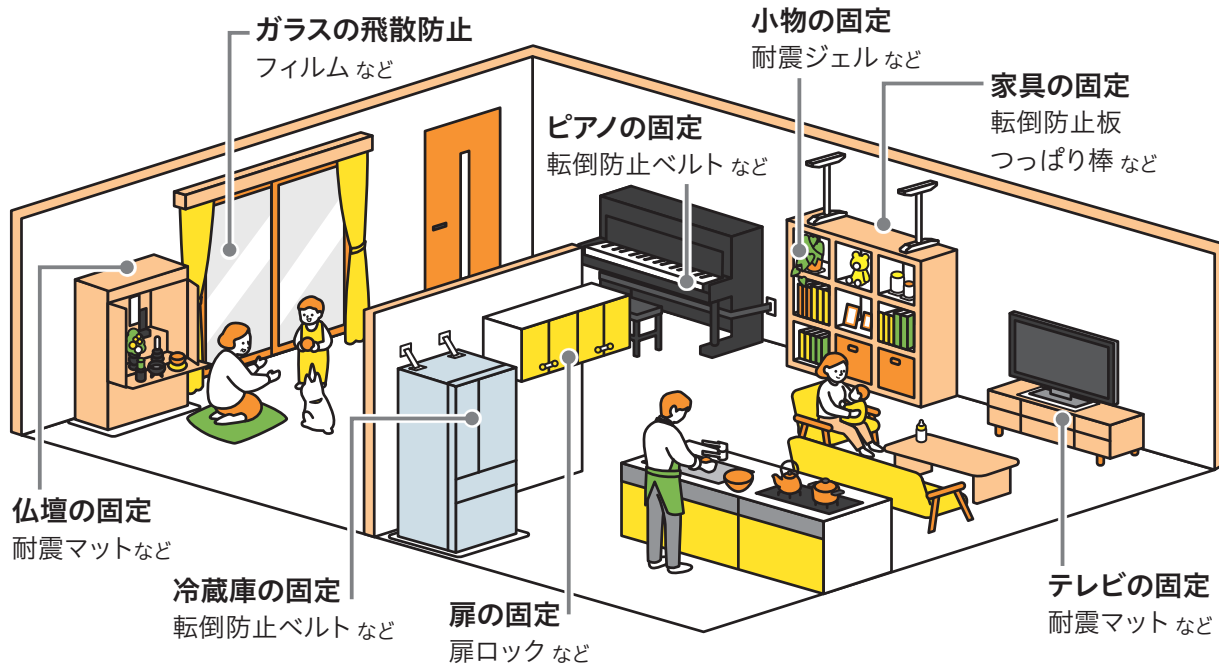
災害発生時には電話がつながりにくくなります。災害用伝言ダイヤルは災害時の「声の伝言板」。もしもの時に備えて、使い方を確認しておきましょう。

● インターネットを利用した災害用伝言板

web171

検索





ガラスの飛散・危険物の落下防止



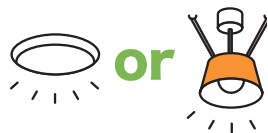
飛散防止フィルムを貼るか、レースカーテン（昼間）や厚地カーテン（夜間）を閉める。



家具類の上に落下すると危険なもの（ガラス製品など）を置かない。

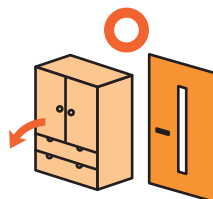
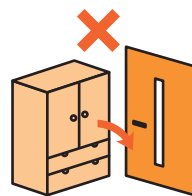


PC機器類は、粘着マットやストラップ式器具で固定する。

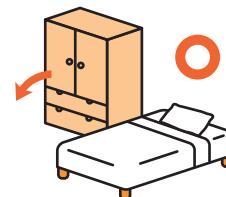
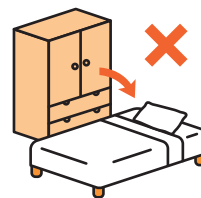


じかづ直付けの照明器具に交換するか、固定器具を使う。

家具配置の工夫



家具が転倒した時に避難の妨げになる位置に、家具を置かない。



寝る位置に倒れてこないよう配置。また、寝室に背の高い家具を置かない。

「危険な場所はない？」家の中を見直して自分と家族の身を守る

防災リュックに準備する基本の備蓄リスト

- ☐ 水、携帯食（乾パンや水を注いでつくるアルファ化米など）
- ☐ モバイルバッテリー
- ☐ 手袋、マスク
- ☐ ライト（懐中電灯など）
- ☐ 数日分の着替え
- ☐ お薬手帳（コピー）
- ☐ タオル、手拭い
- ☐ 手指消毒剤
- ☐ マイナ保険証や資格確認書、免許証の写し
- ☐ ウェットティッシュ、おしりふき
- ☐ ビニール袋（大・小）、防臭袋
- ☐ ガムテープ、養生テープ
- ☐ メモ用紙、油性ペン
- ☐ ラジオ、電池
- ☐ 救急セット
- ☐ 携帯トイレ
- ☐ 保温アルミシート
- ☐ 新聞紙
- ☐ 歯ブラシ
- ☐ 常備薬



家庭内のストック（7日分推奨）

- ☐ 水（飲料用、生活用）※
- ☐ トイレットペーパー
- ☐ ゴミ袋
- ☐ 保存のきく食品（缶詰など）
- ☐ レトルト食品、乾物など
- ☐ ラップ、アルミホイル
- ☐ キッチンバサミ
- ☐ バケツ
- ☐ カセットコンロ、ボンベ

など

※一人あたり一日3ℓ



備蓄の基本は人数×7日分

発災時の行動

自然災害から身を守るために大切なのは、的確な判断と適切な行動です。もしもの時に落ち着いて対応できるよう、地震・水害が発生した時の行動を確認しておきましょう。



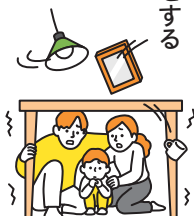
地震が発生した時は

被害を最小限に抑えるため、地震が発生した時にどう行動すればよいのか知っておきましょう。
キーワードは「慌てず、落ち着いて」です。

地震発生

- 10分～数時間
- 5～10分
- 5分
- 3分
- 1～2分

- 落ち着いて自分の身を守る
- ドアや窓を開けて、逃げ道を確保する
- 揺れが収まったら火の始末をする
- 火元を確認・初期消火
- 家族の安全を確認
- 靴を履く
- 非常持ち出し品を用意
- 隣近所の安全を確認
- 余震に注意
- ラジオなどで情報を確認
- 電話はなるべく使わずに、**災害用伝言ダイヤル**を利用する
- 家屋倒壊などの危険があれば避難する
- ガスの元栓を閉め、**電気のブレーカーを切る**
- 隣近所で協力して消火や救出をする



感震ブレーカー
なら自動で遮断！
詳しくは▶P.5

詳しくは▶P.2

避難情報等（警戒レベル）			
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生または切迫	命の危険 ただちに安全確保！	緊急安全確保
～ 警戒レベル4までに必ず避難！～			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を確認	大雨・氾濫注意報
1	今後気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを高める	早期注意情報

水害から身を守るために

自分の命を守ることが最優先です。気象庁から発表される防災気象情報や、河川水位情報を参考に、自主的に早めの避難をしましょう。

災害時の情報収集はどうする？信頼できる情報源を確認しておこう

災害発生時の情報は、命を守る行動や救助・支援につながる重要なものです。県・市町村HPやテレビ、ラジオなどの信頼できる情報源を事前に確認しておきましょう。その一つとして、「奈良県防災ポータル」を活用してください。



「奈良県防災ポータル」には、県内の警報・注意報や避難情報の発令状況、避難所開設情報などを掲載しています。また、気象や交通、ライフラインなど、防災に関するさまざまな情報にアクセスできます。



奈良県HP



奈良県防災ポータル

通電火災の対策に！ 感震ブレーカー が効果的です

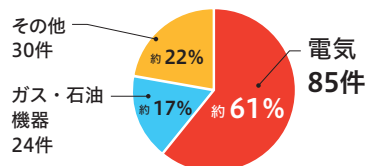
▶ 電気が復旧した際に起きる「通電火災」

大きな地震が発生すると、電気ストーブやテレビなどの家電製品が転倒したり、電気配線が損傷したりすることがあります。その状態で、電気の供給が再開されると、ショートや発熱が起こり、火災につながる恐れがあります。これを「通電火災」といいます。

▶ 感震ブレーカーとは？

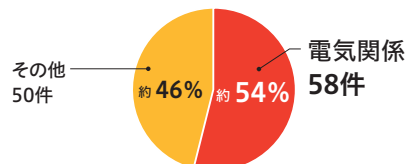
こうした「通電火災」対策として効果的とされるのが感震ブレーカー。一定以上の揺れを感知すると自動的にブレーカーやコンセントの電気を遮断し、通電後の火災のリスクを減らす装置です。感震ブレーカーには以下のような種類があります。

〔阪神・淡路大震災※¹〕



※1「地震時における出火防止対策のあり方に関する調査検討報告書、平成10年」（消防庁）を基に作成

〔東日本大震災※²〕



※2 日本火災学会誌「2011年東日本大震災火災等調査報告書」を基に作成

出典：消防庁HP

感震ブレーカーの種類

	分電盤タイプ（内装型）	分電盤タイプ（後付型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
製品（一例）				
概要	分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断（電気工事が必要）	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能（電気工事が必要）	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断（電気工事が必要なものと、コンセントに差し込むだけのものがあります）	ばねの動きや重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断（電気工事不要）
※価格	約5万～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5千～2万円	約3千～4千円程度

※価格は参考となります。

「通電火災」の対策として有効なのは避難する際にブレーカーを落とすことですが、身の安全の確保が最優先の避難時に、そんな余裕があるとは限りません。感震ブレーカーを設置しておけば、万一の火災リスクを低減させることができます。感震ブレーカーを設置して通電火災から家や地域を守りましょう。

感震ブレーカーに関する
問い合わせは

問 県消防救急課 ☎ 0742-27-8423 FAX 0742-27-0090
※購入・設置の際はお近くの販売店へお問い合わせください。



「もしも」に備えて、「防災総合訓練」の見学や「講演会」に参加してみませんか！

令和8年度

奈良県防災総合訓練・川西町防災訓練

消防・警察・自衛隊・関係機関が連携し防災総合訓練を実施します。観覧については、下記二次元コードをご確認ください。

時 10月25日（日）10時～13時

所 オーバルパークかわにし（川西町）

申込不要



令和8年度

奈良県防災気象講演会～紀伊半島大水害から15年～

県内に甚大な被害をもたらした紀伊半島大水害から15年。改めて災害から身を守る方法について考えてみませんか。

時 11月15日（日）

所 大淀町文化会館（大淀町）

申 右記二次元コードから

入場無料



問 県防災統括室 ☎ 0570-00-0727 FAX 0742-23-9244